

## 第1回輸送資源フル活用推進プロジェクトチーム会議 議事概要

- 日 時 令和8年(2026年)2月20日(金) 16時00分～17時15分
- 場 所 熊本県庁防災センター201 会議室
- 出席者 会議資料のとおり
- 議 題 (1) 国の交通空白解消の取組み、PT設置の背景、地域公共交通計画素案の概要について  
(2) 地域公共交通の現状及び課題について(天草市、芦北町)  
(3) 意見交換

### ■ 議事要旨

#### (1) 国の交通空白解消の取組み、PT設置の背景、地域公共交通計画素案の概要について

##### ○事務局

- ・「資料1」に基づき説明

#### (2) 地域公共交通の現状及び課題について

##### ○天草市地域政策課

- ・「資料2」に基づき説明

##### ○芦北町企画財政課

- ・「資料3」に基づき説明

#### (3) 意見交換

##### ○浦本 観光振興課長

- ・路線バスの資源状況について伺いたい。余剰となったリソースを都市圏交通に振り向けて輸送力を高めようとしているのか。

##### ○事務局

- ・路線バスの車両については更新を行っているため、活用可能な車両数自体は減っていないと認識。一方で、運転士数の減少により、路線の休廃止が生じているのが現状。次期熊本県地域公共交通計画では、地方部のバス路線をダウンサイジングしタクシーへの運行委託等を行うことで、捻出される運転士を都市圏へ再配置する方向性を示している。このことで都市部の輸送力を確保していきたい。
- ・今後、ダウンサイジングやコミュニティ交通への転換を計画的に進めることとしており、来年度以降、各地域に入り、地域の実情に応じたサービス水準を設定していく予定である。

##### ○浦本 観光振興課長

- ・FIT(個人旅行)が増えている中で、公共交通の重要性は増しており、交通結節点から観光地スムーズに行けるように一緒に取り組みたい。ただ、旅館やホテルの送迎について聞いた話によると、女将などが兼任して対応しているケースが少なくなく、実態を踏まえて対応する必要がある。

(裏面に続く)

○牧野 交通政策課長（座長）

- ・芦北町の「ふれあいツクールバス」の一般混乗については、企画部局と教育部局のどちらから提案をしたのか。行政ではどうしても部局間の縦割りがあるため、お聞きする次第。

○芦北町企画財政課

- ・企画部局から持ち掛けたものと認識している。

○牧野 交通政策課長（座長）

- ・天草市のスクールバスの一般混乗の現状は如何。

○天草市地域政策課

- ・一般混乗はほとんど利用がないのが現状である。スクールバスの運行時間帯と住民が利用する時間帯が合わない、また、スクールバスは生徒数に合わせて委託事業者の車両をダウンサイジングしており、住民が乗れるスペースが限られるという理由が挙げられる。

○入田 健康福祉政策課長

- ・福祉施設や病院の利用者をどう輸送するのかという視点のみならず、自然災害からの復旧・復興の面でも移動手段の確保は課題。都市部はみなし仮設住宅があるが、地方部では応急復旧段階で域外に出るケースがある。域外に出られた被災者が元の場所に戻ろうとして自宅再建の場所を確保するも、近くの商店が閉店していて買い物が困難になり戻れなくなるケースが発生している。その観点からも移動手段の確保を検討していく必要があると認識している。
- ・このような分野連携の取組みはありがたく、協力して取り組ませていただきたい。

○岸良 教育政策課長

- ・教育分野ではスクールバスの活用を念頭に置かれていると思うが、芦北町のように車両を町で所有しているケースもあれば、県立学校のようにバスを所有せずに委託先のバス事業者の車両が充てられているケースもある。後者については活用の余地がないかもしれない。車両の保有状況なども確認しながら検討を進めていく必要がある。

(以上)